



皆さまのご寄付のおかげで、第 38 号より通信をカラー印刷化いたしました。ありがとうございます。

第 39 回交流会「こあじろ遺跡探訪会」

開催日：2023 年 11 月 19 日（日）

参加者：16 名

講師：須田英一先生



イベント目白押しのシーズンゆえ、9 月の「こあじろ考古学講座」よりも参加者が少なかったのは残念でしたが、みなさん須田先生のお話が聴きたくて、予定も体調も折り合いをつけて参加してくださいました。9 月の講座では小網代湾周辺にどんな遺跡があるのか、ざっと全体像を教えてくださいました。いよいよ今日は湾の南側にある遺跡を歩いて、見て、思いっきり体感します。幸い、これぞ「遺跡めぐり日和！」というような晴れやかな日となり、遠くで富士山も見守っています。

三崎口駅から路線バスに乗り、松輪入口で下車。ここからぐるっと小網代、諸磯方面をめぐり、天神町から再びバスで三戸入口まで戻り、最後に赤坂遺跡を見学するという計画です。

それぞれの遺跡ポイントで、三浦市教育委員会の発行した冊子（多くは須田先生が在職されていた時に作成されたもの）や関連する書籍、それに横須賀考古学会の『三浦半島考古学事典』からの抜粋資料等を参照しながら、いつ頃に使われて、いつ頃に発見されたか、発掘された遺物、その後の状況など、解説を伺いました。



① ■丸畑遺跡

特に発掘の事例はないが、表面採取（表採）で遺物が見つかる。

② ●高山古墳群（義士塚）

円墳 2 基が残る（昔は 4 基あった）。地元では「義士塚」と呼ばれ、戦国期の三浦氏に関連する伝説があるが、古墳時代の円墳であろうと思われる。発掘されていないため、詳細は不明。

③ ▼小網代やぐら

小網代湾から伸びる谷戸、急傾斜地の擁壁工事の際に、室町時代のやぐらが見つかった。地面と同じ高さで、現在はおそらく擁壁に覆われる。

④ ■鷺野（さぎの）遺跡

シーボニア入口の交差点周辺。発掘例はほとんどない。

⑤ ■油壺遺跡

現在は個人住宅だが、1995 年の発掘調査時に住居址が複数見つかる。中でも縄文時代中期の柄鏡形敷石住居址や埋甕は、三浦半島地域で初めての発見。また翡翠製のペンダントが出土した。

⑥ ■鵜ガ島台（うがしまだい）遺跡

油壺遺跡と近接。ここから出土した土器は型式学研究の結果、「鵜ガ島台式土器」と名付けられ、縄文時代早期の標式遺跡として考古学研究者の間では超有名である。

⑦ ▼新井城址

現在の東大臨海実験所の敷地に本丸があった。後北条氏に兵糧攻めにされて三浦一族が滅亡した場所。

「あー、ここだったのかあ」「いいところに住んでいたね」「魚や貝も捕り放題だったんだろうね」など、参加者のみなさんから様々な感想が溢れます。矢継ぎ早の質問にも丁寧にお答えいただき、気がついたらあつという間にお昼の時間を過ぎていました。

昼食は油壺ボートサービスさんのご厚意で、グリーンハウスのテラスを使わせていただきました。普段はヨットクラブの方の利用だけで一般には貸出はしていないそうですが、旧知の須田先生からの紹介ということで特別に貸していただきました。感謝！

⑧ ✕戦争遺跡（洞穴）

小網代や油壺には、第2次大戦時に水上特攻艇「震洋」や特殊潜航艇「海龍」などの特攻隊基地跡が多数残っている。戦後民間に土地が払い下げられ、手掘りで掘られた格納庫がそのまま利用されている。

⑨ ■屋志倉遺跡

エデンの園の別棟をつくる時に調査された。縄文土器や古墳時代の遺物が見つかる。

⑩ ■諸磯遺跡

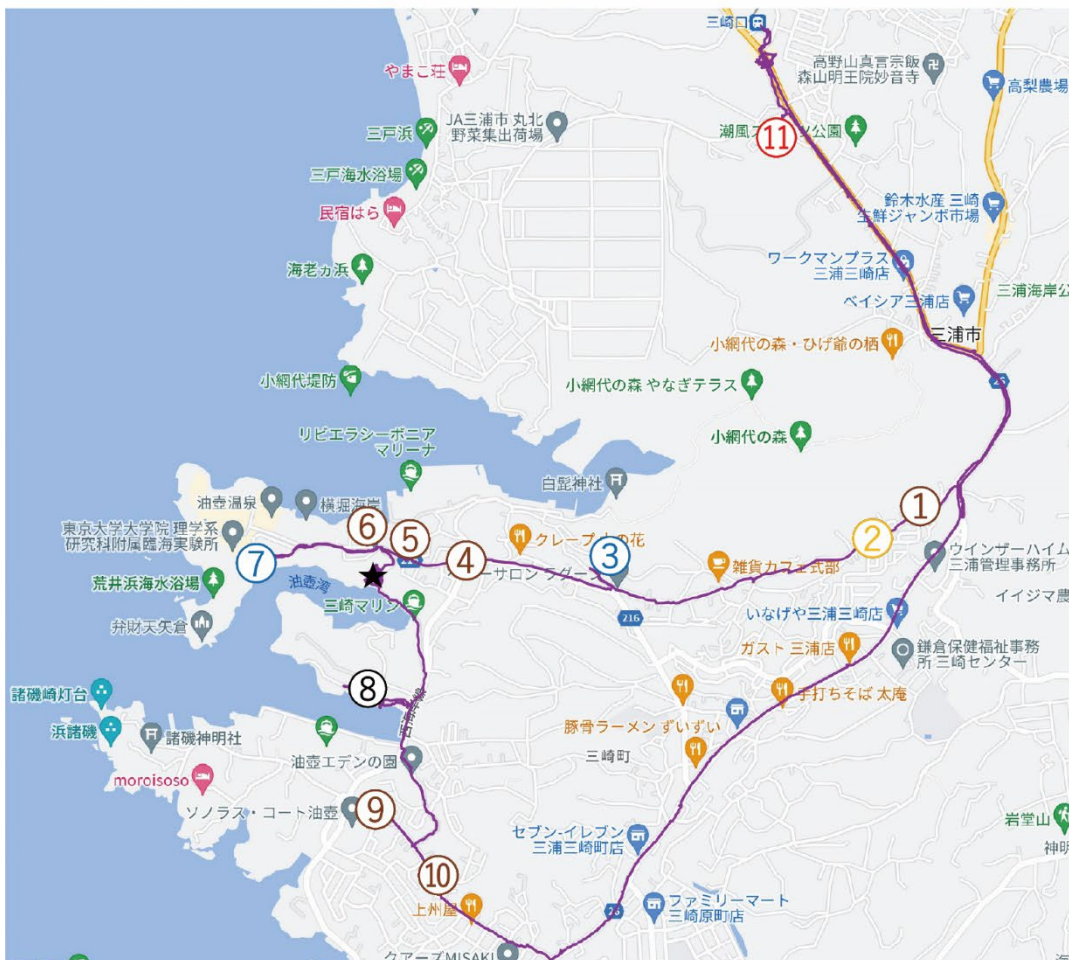
三浦市には諸磯、三戸、鵜ガ島台、大浦山と4つの標式遺跡があり、全国でも珍しい。諸磯式土器は、土器の縁に猪など獣面をつけた装飾が特徴として見られるものがある。

⑪ ◆赤坂遺跡

三浦半島最大の弥生時代大集落遺跡。多数の竪穴住居址、方形周溝墓など。遺跡全体は約7万㎡。一部（約4700㎡）を三浦市が公有地化し、国指定史跡に指定された。旧石器時代、縄文時代の遺物も出土している。



通信の紙面ではお伝えしきれませんので、前回の考古学講座とも合わせて報告冊子にまとめて、会員のみなさんに配布することを計画しています。気長に待っていてください。 記：浪本晴美 写真：辻、木皿、浪本



Google マップに
スマホアプリ「位置ロガー」
（木皿直規作）で記録した
GPS データをマッピング。
紫の線が当日移動したルート
です。

- ① ■丸畑遺跡
- ② ●高山古墳群
(義士塚)
- ③ ▼小網代やぐら群
- ④ ■鷺野遺跡
- ⑤ ■油壺遺跡
- ⑥ ■鵜ガ島台遺跡
- ⑦ ▼新井城址
- ★ 昼食場所
- ⑧ ✕戦争遺跡（洞穴）
- ⑨ ■屋志倉遺跡
- ⑩ ■諸磯遺跡
- ⑪ ◆赤坂遺跡

緑▲：旧石器時代
茶■：縄文時代
赤◆：弥生時代
青●：古墳時代
青▼：古代、中世
黒✕：戦争遺跡



●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

●●● ドキ土器・ワクワク「こあじろ遺跡探訪会」 ●●●

9月9日のこあじろ考古学講座「小網代地域の遺跡とその周辺」で須田先生のお話を聞き、以前歩いた所にたくさんの遺跡があり行ってみたい！と思ったので、本当に楽しみにしていました。

まずは高山古墳群（義士塚）、畑の中にお饅頭のような塚が2基、韓国の大邱で見た古墳にそっくりです。なんで古墳なのに義士塚と言うのですかとお聞きしたら、「良い質問ですね」と先生。「古墳が作られてから時代がたち埋葬された人の記憶も定かではないので、伝承として戦国時代の戦で亡くなった人の墓としたのではないかな。近い時代の方が印象的、発掘していないので古墳であるか、義士達の墓があるかははっきりしない」とのこと。発掘した方がいろいろ解るのでは？とまた疑問に思っていました。

続いて小網代バス停近くから集落のある谷をのぞき、崖の所に鎌倉や室町時代の武士の墓、小網代やぐら群。崖面は補修工事でコンクリートに覆われて何も見えません。発掘の写真を見せていただきながら縄文の鷺野遺跡・油壺遺跡とたどって行きました。4000年前の住居の跡からヒスイや埋甕が出て来たことや、縄文人の生活などいろいろお聞きしました。ヒスイは糸魚川だし、埋甕は山梨などで多く発掘されるそうなので、山梨のお姫様がヒスイのネックレスをつけてお嫁に来たのかなと妄想してしまいました。先生は畑の端や電柱の近くで赤茶色の小さな小石を見つけ「土器です」。弥生の土器や須恵器（植木鉢も）などのかけらがあるそうで、電柱近くは必見とか。確かに耕す時小石が出ると端の方に捨てますねー。

12時過ぎてお腹空いたけどもう少し我慢して新井城へ。横堀海水浴場へ下りる辺りが内側の引橋で、2mほどの土塁もありました。外の引橋は碑がありますが、内側の引橋はどこだろうと思っていたので嬉しいです。新井城の空堀や土塁跡を見てから、崖道を下りて油壺湾へ。蜂を飼っている素敵なクラブハウスでお弁当♪休憩。名向崎の戦争中の近代遺産を見て諸磯へ。

坂を上って屋志倉遺跡と諸磯遺跡。諸磯遺跡は道路の近くに大きな碑がありますが何も無いと思っていた。土器の口のあたりにイノシシの小さいのが乗っていたり、先が二本になっている串を使って絵を描いたり、特徴がある土器が出ているそうです。

休日で混み合うバスにやっと乗り最後の赤坂遺跡へ。資料の赤坂遺跡遺構配置図を見ながら集会場かも知れない大きい家があった所、墓のあった所など説明を聞きました。赤坂遺跡の一部は発掘せずにそのまま保存するそうですが、一本白い柱が有るだけでただの野原。三浦半島最大級の弥生時代の集落なのに、三崎口駅からこんなに近いのに、なぜ三内丸山遺跡や吉野ヶ里遺跡のような展示をしないのだろうと前から思っていました。

先生から、発掘は何か（家・道路・橋など）を作るためにするので、遺跡が壊されてしまう。そのまま保存がベスト。将来新しい技術でもっと解るかも知れない。未来に託す。と聞いて納得しました。三浦市にお金が無いのも事実ですけど。

先生、見つけた土器のかけら、縄文とか弥生とか須恵器とか植木鉢とか、どう区別するのですか？

A.K

とてもわかりやすく小網代周辺の遺跡について説明して下さい、本当にありがとうございました。自分的には、諸磯の戦争遺跡が特に興味深かったです。次は戦争遺跡シリーズの第??弾に期待したいです。 banq

より詳しくお話しが伺え、楽しい遺跡巡りでした。体力不足でご迷惑おかけしました。 S.T

とにかく、先生のお話がおもしろかった。どんな質問にも気軽に答えてくださって感激しました。畑の縁っこ、犬がおしっこするような隅を探すと、農家の方が邪魔でどけた土器の欠片が見つかるということ。良いことを教えて頂いた！ A.M

三浦市には重要な標式遺跡が四か所もあることがわかって誇らしい気持ちになった。大切に保存、発掘していくことが必要と感じた。須田先生のような専門家にお話がうかがえて、うれしかった。何となくこの辺りかもしれないと想像していた場所が特定できた。お天気もよく、最高に気持ちよかったです。 M.O

松輪入口から、天神町のバス停、そして三戸入口のバス停とバスを使いながらの、縄文時代から近現代の遺跡まで須田先生のお話が面白くてあっというまでした。先生のお話を聞いた後だからでしょうか、考古学ってとても沢山の事が関わっている事も知りました。これから図書館へ足を運んで色々な資料をもう一度読んでみたいとなりました。 Y.M

とにかく最高の遺跡めぐり日とで、充実した一日でした。得た知識をゆっくりと消化していきたいと思っています。 H.N

・畑のちょっとしたところから土器がでてきたり、たのしかったです
・現在の家のところが古墳であったなど、近いところに古代があって、おもしろかったです。 M.T

三浦に 30 年近く住んでいても知らない所が多いと思いました。とてもためになる講座でした。また歩いてみたいと思います。ありがとうございました。 A.S

先生の仰った、「未来のために、昔のことを調べている。」という言葉がまさに目から鱗でした。分かっているつもりで、分かっていなかったな、と反省混じりの感想を持ちました。 M.H

天候に恵まれ、先生のご説明もわかりやすく、興味深く、富士山も加わり、気持ちの良い遺跡めぐりでした

直接に見た円墳には感動でした。こんな身近な所に残っていたんですね。

歩くことにより、入りくんだ湾の美しさ、海や山の幸に恵まれた三浦には、生きていくための条件が揃っていたことがよくわかりました。

縄文時代には二つの頂があったという富士山も、見えていたのでしょうか。 K.M

入院の影響で足元がおぼつかないので、タクシーを使ってポイントポイントで参加してみました。運転士さんにも途中で止めて貰って交流会に pinpoint 参加する旨を話して協力して貰いました。その結果、午前4カ所で先生のお話を伺うことができ、新しい知見を場所も含めて得ることができました。タクシー利用は昼までと決めておいたので、昼食場所のグリーンハウスの近くで降ろして貰いました。グリーンハウスはぽつんと一軒家というテレビ番組でよく見るような木製の遊び場を備えていました。宿泊機能もあるということなので、ボート利用者に有名でした。

後からは足取りがゆっくりなので、先に見学して帰ってくる本隊に合流しようと道路際で待っていました。戦争遺跡や屋志倉遺跡を見学できなかったのが残念でした。諸磯遺跡の碑のあるところで本隊と合流でき、天神町バス停まで一緒に歩くことができました。最後の赤坂遺跡で雲が赤くなり富士山の姿がくっきり、夕闇が迫る頃最後の集合写真に参加することができて良かったです。スタッフなのにスタッフに大きなお世話をお掛けしました。何とか交流会に参加できた事に感謝します。参加の皆さんの関心の高い質問が多くて良い交流会だったと思います。 M.M

小網代を詩う

小網代の小さい秋

中井 由実

森の入り口は急な坂
知らず知らずに足が速くなるから
勢いづいて転びそうになる
そんな私を

黄色くなつて枝を離れた葉を巻き上げる風が
一緒に受け止めてくれる

銀色に揺れるススキ

鮮やかに色変わりしたヤマイモの葉が連なる谷

でも

夏が暑くて長かった今年

森の中は

まだまだまだ緑がいっぱい

名残のクサギの花とイヌタデの紅が

申し訳なさそうに

小さな秋のふりをしてくれていた



挿し絵:「秋のくわいだん」伸

落ち着かず

中井 由実

小網代に行く

となると、私は前の日からそわそわ

職場でサンプルを持つ手が止まったりする

休憩時間でもないのに

ネットの天気予報のアイコンに

カーソルを動かそうとする

明日は晴れと知っているのに

その日の朝は

テレビのニュースが耳に入らない

これじゃあ、何か忘れ物をしそう

京急電車ですぐに空いた席を見つけたのに

じっと座ってられない

ほら、ペンまでが

落ち着かずに手帳の上で踊っている

スタッフ研修「変形菌探し 2023@光の丘水辺公園」7～10 月

暑い盛りは無理せずに、天候、体調の様子をみながらの開催でした。

7月3日：参加者3名。ネムの花盛りの水辺公園、蒸し暑くなってきましたし、今日は出そうと期待を抱いて探し始めました。はじめて見るチョウチンホコリに感動！ およそ8種確認。



チョウチンホコリ



モジホコリのなかま



なぞの子実体

9月18日：参加者5名。9月に入っても猛暑が続きます。およそ11種確認。現地では小さすぎてわかりませんでしたが、標本採取してよく観察すると、クモノスホコリ美しい！



コマメホコリ



クモノスホコリ



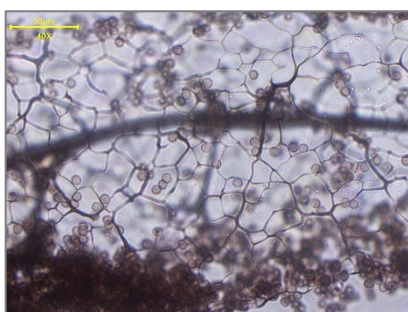
エダナシツノホコリ

10月30日：参加者3名。キノコはたくさん目に入れども、変形菌の姿なく、怪しいツブツブはみんな菌類でした。それでも黄色い変形体をMさんが発見しました。

顕微鏡写真を少しだけご紹介します。胞子の形や大きさもさることながら、細毛体や軸の構造なども種を見分ける決め手になるそうです。生命の星・地球博物館の『新・入生田菌類誌』を入手したものの、掲載種が限られているため、宮本卓也先生にお願いして、『日本変形菌誌』（山本幸憲著）を譲っていただきました。1135 ページ（！）もある、顕微鏡で観た図が載っている図鑑です。同定をするのは並大抵のことではないと実感しています。



なぞの子実体



ムラサキホコリのなかま



クモノスホコリ

ちなみに、通信 No.37 で報告しました4月に採取した黄色い変形体、まだ変形体のまま生きています。夏の暑い時期はお疲れ気味でしたが、このところまた元気になってきて、どんどん増殖中。一部を日の光にあててみましたが、子実体にはならず、菌核（休眠状態）になってしまいます。子実体になるにはやっぱり時期があるのかもしれない。

変形菌探しはまた来年の春になりましたら再開いたします。参加をご希望の方は、あらかじめ会までご連絡ください。こちらから日程を連絡いたします。一緒に変形菌の沼にハマってみませんか。

記・写真：浪本晴美

水辺公園友の会の活動・紹介

この度は水辺公園友の会（以下「友の会」という）の賛助会員になっていただきありがとうございます。この上ない応援と元気をいただいたと役員一同感謝しています。

さて、水辺公園の概要は「こあじろの森くらぶ通信 No.36」に掲載していますので、ここでは友の会の活動や課題、また賛助会員の皆様の来園について簡単に紹介・説明いたします。

友の会は、“光の丘水辺公園（以下「公園」という）において、かつてこの地域にあった里山の素晴らしい自然環境を再生し、後世に伝えることを目的としてボランティア活動を行う。”として、2000年4月に発足し、現在24年目になります。先日11月3日には“緑綬褒章”受章の栄誉を受けました。多くの会員また関係者の20数年にわたるたゆまない活動とご支援のおかげと考えており、今後も続けていきたいと考えています。

公園は、①池と湿地からなる平面部分と②それを取り巻く斜面からなり、友の会は①と②を活動範囲としています。①が中心となっています。①はエリアを“四季の池”“野鳥の池”“聖なる池”にゾーニングした管理をしており、指定管理者は全体ですが“四季の池”を、友の会は“野鳥の池”、“聖なる池”を主に管理しています。

開園からは25年が経過し、自然環境管理は“自然環境の再生・維持”から“より多様性を広げる”へと変わる段階と考えています。

管理作業は、ハンゲショウ群生地のアシやクズなどの除去、ニリンソウ群生地ではコクサギの抜き取り、カラスウリなど蔓の除去、田んぼの畔や通路は刈払機を使つての除草、萌芽更新や危険樹木はチェーンソーを使った伐採、畦や堰の補修。水路や田んぼの畦の漏水は砂利や沈積した泥を使つての補修や補強などを行っています。

植物では、公園自生のヤマユリの種から苗を育てての繁殖、チョウ類のためにキジョランやフジバカマなどを増やしています。樹木では、湿地横樹木をコナラ等からハンノキに変えようとしています。コウモリガの食害で思うようには行っていない。

トウキョウサンショウウオは毎年産卵数を確認していますが、近年その数が減少傾向にあるため、回収して孵化させて放流することを考えています。ホタルの再生はギブアップ状態でストップしています。調査では「モニタリングサイト1000 里地調査」の植物相・チョウ類・アカガエルを行っています。

その他、キッズ自然教室では古代米の粃播きから脱穀までの5回コースの実施、ハンゲショウやニリンソウ群生地公開時の案内、自然観察会、早朝探鳥会、草木染教室、展示物の製作・管理、伐木を活用した椅子の製作設置、会報発行などです。

友の会発足当時は、作業への参加人数は10~20人ほどいたのですが、会員の高齢化で年々減少し、現在は役員の数人になっています。定例活動日（火、土曜日の午前中）を設けていますが、いくらでもやること、やりたいことがありますので、今では、定例日に関係なく可能な日はほぼ毎日出て作業をしています。次の世代に引き継ぐことが現時点最大の課題です。

賛助会員も、イベントや作業に友の会会員と同じように参加できると考えています。来園されましたら、不審者と間違われぬよう事務所に一言挨拶（帰る時も）、ボランティア室にて「こあじろの森くらぶ」の名札を付けて管理区域“野鳥の池”“聖なる池”に入ってください。イベントなど協力要請する場合は、会報「水辺公園だより」や「水辺公園通信」にて、会員に周知し、お願いしていますので参加ください。



記 別府史朗（こあじろの森くらぶ、水辺公園友の会）

●●● 光の丘水辺公園友の会が緑綬褒章を受章されました おめでとうございます ●●●

スタッフ研修 第7回海岸歩き「城ヶ島 その2」

2023年9月30日

快晴

参加者6名



資料①：県立城ヶ島公園管理事務所提供

初参加の会員を迎え、城ヶ島の2回目、東半分をまわる。三崎口駅から城ヶ島行きバスに乗り、白秋碑前で下車。県立城ヶ島公園管理事務所へと急ぐ。城ヶ島に残る戦争遺跡について、園長の福岡一昭さんに説明して頂くことになっていたのだ。

三浦半島の海岸部には、多くの戦争遺跡が残っている。首都防衛のため、横須賀海軍基地に近く、見晴らしのいい海岸地帯が選ばれている。松輪の海岸歩きでは、福泉寺の石碑をみて、終戦直前、爆弾を載せて敵艦に突っ込んでいく特攻艇震洋の隊員のことを知った。また静かな入り江の小網代湾にも、藤ヶ崎の西側には、多くの手掘りの洞窟があり、震洋の格納庫として使われていたという。

城ヶ島は、東半分が砲台基地となって一般人は立ち退かされ、上空から見える部分は大砲を隠すための偽の建物で覆われていたそうだ。(資料 - ①) 戦後、施設はそのまま残って県立公園になったというわけだ。今も公園入口近くにある大きな円形花壇は、第一砲台の跡だということだ。その第一砲台の北西に 50m 離れた、今も迷彩柄を留める地下通路入口から、鍵を開けて案内していただく。真っ暗な足もとを懐中電灯で照らしながら、弾薬を運ぶためのレールが戦後になって撤去された瓦礫の上を、慎重に進む。鉄筋コンクリート製の頑丈そうな造りの、かまぼこ型の壁面



城ヶ島砲台：戦艦「安芸」の副砲「25.4 cm (45口径) カノン砲」
※最大仰角 30 度 砲弾 (重量 235 kg) の射程距離 24.6 km

資料②：県立城ヶ島公園管理事務所提供

は真っ白で、とても 80 年以上経っているとは思えない。質のいいコンクリートを使ったのだろう。この地下通路が、例の花壇の下まで続いているのだ。同じ造りの第 2 砲台が東側にもあり、それぞれワシントン軍縮会議（1922 年）の決定で、戦艦安芸からはずされた砲塔が据えられていたという。（資料 - ②）次に東南側の、今は太平洋を見晴らす展望台の建物の下にある観測所（写真 - ③）や、海岸にある



潮位を測る井戸も教えて頂いた。地下から表に出るたび、明るい陽射しと暗い歴史を行き来して、クラクラする。

園長さんは、予約制で教員や小中学生の団体を案内されているそうだが、戦跡保存にも力を入れて欲しいと語られていた。この地に砲台を造り維持するのに、どれほどの犠牲が払われてきたことだろう。しかも一度も使われていないという。何という無駄なこと！戦争って！

芝生広場からは、高磯から通り矢までの絶景がのぞめるが、あまりに日差しが強いので、お弁当は管理事務所近くの屋根のあるベンチで食べる。南風のために傾いた黒松林を抜け、青首大根の形をした安房崎灯台（写真 - ④）を見て、潮位観測井戸近くの磯におり立った。小さな湾を隔てた西方に、馬の背洞門が見える（写真 - ⑤）。この辺りは初声層のガラガラした地層が続く。安房崎に近づくにつれ、初声層から三崎層に変わっていく。その境界面では、両者が入り乱れて面白い景観をみせてくれる。火山豆石もこの辺りで見つかるそうだ。今度来たら、ゆっくり探そうっと。白っぽい三崎層と濃い色の初声層が、縦にサンドイッチ状になった岩の前で記念写真を撮る（写真 - ⑥）。



シルトとスコリアの互層がきれいに整った三崎層（写真 - ⑦）が、西方に延びているが、途中が崩れて通行止めのため、引き返し、洲の御前（写真 - ⑧）にお参りして台地にあがる。洲の御前は、藤原資盈の家来、洲荒四郎が房州に睨みをきかして守った所といわれている。西の三郎、東の四郎というわけだ。

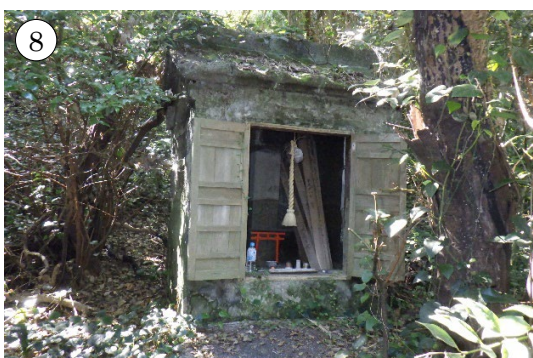


公園を出て、下の駐車場を通り抜け、水産試験場や新潟鉄工所の脇を通り、ようやく海辺にたどり着く。さっきの崩れがすぐそこに見えそうだが、えらく回り道をさせられたものだ。そばに、昔は島だったのか、亀の子島という小山がある。側面にはコンボリュートラミナと言われる、キャベツを半分に切って下向けたような珍しい地層が見られる（写真 - ⑨）。海底で泥が固まる前に水が抜けてできた渦巻きが上の部分が削られ、その状態が反転していることから、地層が逆転していることがわかるそうだ。



城ヶ島は地層のデパートと実感！地層の織りなす模様を見ているだけで、とても楽しかった。

白秋碑と白秋記念館を見学し、白秋碑前バス停から帰途についた（写真 - ⑩）。



記：松原あかね 写真：浪本晴美





■城ヶ島-その 1
 ■城ヶ島-その 2



Google マップ上に
 木皿直規さん開発のスマホアプリ『位置ロガー』で記録
 した GPS 情報をマッピングし、ルートを示しました。

野山を歩きながら恐ろしい生き物は何かと考えてみた。

ツキノワグマとは出会ったことはないが、富山県匠王山の登山道の真ん中に真新しいクマの大量のタメフンを見ている。見ているだけでも、ガタガタと身震いし恐ろしくなってきた。

北海道知床半島の知床5湖で、遊歩道を歩いていた時に、ヒグマが出てきているので注意するよう係り氏からいわれたことがある。また、半島最高峰の羅臼岳 1661 メートル登山の時は、ヒグマ除けに笛を鳴らしたり空き缶を叩きながら歩いたものである。

マムシは丹沢の山中で出会ったことがある。山の生き物は、人の気配で瞬間に草むらへ逃げるのにマムシはじっとしてうごかない。小網代の森の真ん中広場で、ある人が花の写真を撮影中にしゃがんでカメラを構えたら、そこにマムシが潜んでいた。近くにいた私の方が怖かった。

遊歩道が整備されてきたので、最近は出会う機会が無くなってきている。

立ち木の頭上で小鳥たちが鳴き騒ぐので見上げると、枝に架けた鳥の巣へナント、アオダイショウが飛び込んで雛を襲っている。高い木立へよくぞよじ登ったものと感心した。

昔、三浦半島は軍事施設が数多く存在し要塞地帯として地図は白紙で、立ち入り厳禁であった。確証はないが、立ち入り禁止とするために数多くのマムシを放ったという話を聞いたことがある。

真夏、南の谷へ止めた方がいいと云ったのに、3人組が出掛けた。途中で、オオスズメバチの大群に襲われて青くなって戻ってきたことがある。南谷奥には、水神様の祠がありお正月に小網代の森へ行くと、必ずお参りしたものである。

小網代の森で出会った生き物を述べてみると以下のとおりである。

ハクビシンは白髭神社前で。アライグマは周辺農家が仕掛けた檻ワナへ捉えられたのを見ている。以前は、浜近くの砂浜で足跡を見ているが少なくなっている。



写真：H.N

イタチは、30 数年前にイギリスから来た自然保護団体を案内した時に、アズマネザサの生え際からスッと出てきた。森の自然の説明が不要であった。森中にある古井戸。この井戸へイタチの仔が飛び込むのである。幾度か網で掬いだして穴を掘って埋葬してやった。

私は、横浜市旭区で蜂の相談員ボランティアを 10 年間勤めたことがある。年に数度は区役所へ呼ばれ、ハチについての共通意識の確認や区内の蜂の出没状況を聞いている。

区役所では、区民からの蜂の相談を受けて現場へ同行し蜂の種類や、簡単に処理できるものか判断する。また専門の蜂捕獲業者へ手配する。安全第一決して無理はしない。

ある団地の3階の窓庇へ、巣を懸けたアシナガバチの巣を業者へ手配し除去してもらった。区内でミツバチの分蜂に出会ったことがある。数百数千匹のハチがブンブンと飛び回り渦を巻いている。見た人しか分からない自然脅威である。実に恐ろしかった。やがてどこかへ集団で飛び去って行った。

区役所からは蜂の詳細な専門書と、刺された時の対応器具や処理薬品をあずかっている。



◆◆スタッフの活動

2023.09.29～10.01 西海岸線道路（油壺―三崎口）整備、説明会（於：初声市民センター）
 2023.10.01（日） 通信第38号発送作業（於：横須賀市立市民活動サポートセンター）
 スタッフ会議
 2023.10.09（月） 第39回交流会・配布資料調整
 2023.10.22（日） 第38回交流会（リモート）カレンダー画像選び
 スタッフ会議（リモート）
 2023.10.30（月） スタッフ研修 変形菌探し（光の丘水辺公園）
 2023.11.04（土） スタッフ会議（リモート）
 2023.11.19（日） 第39回交流会「こあじろ遺跡探訪会」（講師：須田英一先生）
 2023.11.22（水） スタッフ会議（リモート）
 2023.11.23（木・祝） 第40回交流会下見
 2023.11.25（土） スタッフ研修 海岸歩き「三崎横断、西海岸へ」
 2023.11.27（木） スタッフ会議（リモート）
 2023.11.30（木） スタッフ研修 変形菌探し（光の丘水辺公園）
 2023.12.01（金） スタッフ会議（リモート）
 2023.12.02（土） 第40回交流会「三戸の遺跡めぐり」
 緑の会（三浦海岸伊豆島）

◆◆スタッフ研修 第9回海岸歩き「諸磯」

日時：2024年2月17日（土）（雨天順延） 集合：10:00 三崎口駅前
 ＊参加ご希望の方は、下記までご連絡ください。詳細をお知らせします。
 連絡先：担当・松原 メール post@mori-club.com 電話 090-6016-0513

◆◆スタッフ研修 第10回海岸歩き「油壺」

日時：2024年4月6日（土）（雨天順延） 集合：9:40 三崎口駅前
 ＊参加ご希望の方は、下記までご連絡ください。詳細をお知らせします。
 連絡先：担当・松原 メール post@mori-club.com 電話 090-6016-0513

◆◆第41回交流会「鳥いっぱい谷と海2024」のお知らせ

恒例の鳥見会、今年も小網代の森へ鳥たちと出会いに行きましょう

日 時：2024年2月4日（日）
 （雨天の場合は2月11日（日）へ延期）
 集 合：早朝谷歩きコース 8:00 水道広場（小網代の森引橋入口）
 のんびり漁港コース 9:40 三崎口駅前（または小網代漁港 10:40）
 解 散：14:30 頃 水道広場（小網代の森引橋入口）
 持 ち 物：昼食、飲み物、あれば双眼鏡、図鑑など
 講 師：別府史朗
 参加資格：会員とご家族、ご友人

◆◆【予告】光の丘水辺公園遠足「春の妖精ニリンソウ」

3月末から4月初めにかけて、見ごろを迎えるニリンソウの可憐な姿を見に行きたいと思います。
 日時が今はまだ定まりませんが、決まりましたらハガキでお知らせいたします。楽しみにお待ちください。

こあじろの森くらぶ通信 No.39 2023年12月10日 発行：こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地：〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先：ホームページトップの「お問合せ」からメールをお送りください（高橋）

電話 046-889-0067（仲澤）

ホームページ URL：<http://www.mori-club.com/index.html>

（右側のQRコードをスマホのカメラで読み込んでください）

年会費：1000円（7月～6月）入会金不要

郵便振替：こあじろの森くらぶ 00290-6-137203

